



ナ・デックスレポート

第63期 報告書

平成24年5月1日～平成25年4月30日



投資家のみなさまにおかれましては、平素より当社事業へのご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

ここに当社第63期(平成25年4月期)の営業状況を報告し、今後の展開について説明させていただきます。ご一読のほどお願い申し上げます。

代表取締役社長 太田 善教

世界の自動車産業を接合技術で支えるために グローバル展開を加速していきます。

Q 当期の事業環境と営業状況について お聞かせください。

主要顧客である自動車関連業界は、国内販売が補助金効果等により回復し、海外販売も反日運動が影響した中国を除き、好調に推移したことから、生産が拡大しました。そのため、設備投資にも増加基調が見られました。

当社は、自動車関連企業向け機械設備に軸足を置き、自社製品であるウエルドシステムの拡販に注力する形で、ビジネスモデルを鮮明に打出していきました。その取組みが、国内

における電気機器関連企業向け機械設備の落ち込みをカバーした結果、当期の連結業績は増収を確保しました。また、自社製品の売上拡大による利益率の上昇に加え、年末以降の円安を受けて為替差益を計上したことなどから、計画を上回る利益改善を果たしました。なお、顧客企業の海外生産移転が進んだため、海外売上高比率は、前期の9.6%から20.8%に上昇しました。

当社は近年、事業の「見える化」をテーマとする多くの取組みを進めています。製造子会社の株式会社ナ・デックスプロダクツでは、生産現場の「見える化」に向けて、お客さまへの

情報公開機能を備えた「PET（生産履歴追跡）システム」を昨年に自社開発・導入しましたが当期はその利用を本格化し、お客さまの信頼と満足度を高め、取引拡大につなげました。さらに、上海にある製造子会社にもPETシステムを導入し、国内・上海間を結んだ双方向の「見える化」を図りました。

そして今年3月には、当社が提供できる商材・サービスをよりわかりやすく「見える化」する取組みとして、エレクトロニクス・コンポーネント事業のショールームを本社1階にオープンしました。お客さまへの情報発信はもちろん、仕入先を交えた情報交換・交流や、当社内における学びの場としてもフルに活用していきます。

ショールームの詳細については、5頁をご参照願います。



今後の海外事業展開について ご説明願います。

これまで当社の海外事業は、上海およびタイの拠点を核として、中国・東南アジア地域を中心に進めてきましたが、今後は自動車関連企業による近年の米州展開に積極対応していく考えです。

その一環として今年2月、NADEX MEXICANA, S.A. de C.V.をメキシコ・ケレタロ州に設立しました。メキシコは米州全域に向けた自動車製造拠点として発展しているエリアです。今回新設したメキシコ子会社は、日系自動車関連企業に対し、現地マーケットに合わせた商品・システムの販売とサービスの提供を行っていきます。

また、メキシコ子会社は海外関係会社と連携し、米系メーカーなど日系以外の自動車関連企業に対するアプローチも

FOCUS

積極的なイベント展開でシステム提案を強化

本社ショールームのオープンとともに、当社は商材・サービスに関する情報発信に一層注力し、システム提案による営業を強化しています。

今年3月に開催した第4回プライベート・ショーでは、ナ・デックス技術センターにおける最先端接合技術のプレゼンテーションと、本社ショールームでの電子デバイスを中心とする展示・講演を連携。2ヶ所のイベントをシャトルバスの運行で結び、多くのご来場者から好評をいただきました。

また5月には、石川県産業展示館で開催された「MEX金沢2013(機械工業見本市金沢)」と、横浜国際会議場展示ホールでの「自動車技術展：人とするまのテクノロジー展2013」に続けて出展するなど、各地のイベントに積極的に参加し、製品と技術を幅広くアピールしています。



プライベート・ショー



MEX金沢2013

進めていきます。日系・米系の自動車関連企業との絆を強固にしていくことで、将来的には「世界の自動車はナ・デックスグループの接合技術で作られている」というポジションを築き上げたいと考えており、メキシコ子会社設立は、そのための第一歩と位置付けています。

当社では、引続きお客さまの海外生産移管・現地調達といったグローバルなニーズに応えるべく、海外拠点の整備・再編を実施し、海外代理店網による供給・サポート体制を確立していきます。そこで必要となるリソースを確保すべく、人材の育成や海外関係会社との連携強化をさらにスピードアップしていきます。

Q 投資家のみなさまへのメッセージをお願いします。

国内では、金融緩和と円安・株高による期待が高まり、景況感の改善傾向が表れていますが、顧客業界におけるグローバル生産シフトの流れは変わらず、一層加速していくものと思

われます。その中で当社は、先に述べました海外拠点の整備を進めつつ、今年1月に新設した海外事業部を中心に、グローバル戦略におけるマーケティング・マネジメント体制を強化していきます。

同時に、高収益型企業への転換を果たすべく、メーカー機能を産学官連携を通じて強化し、より高付加価値な製品の開発とトータルソリューションの提供を目指していきます。

今期の連結業績については、こうした取組みへの成長投資を踏まえ、売上高227億円(当期比20.9%増)、営業利益7億円(同5.2%減)、経常利益10億円(同13.6%減)、当期純利益9億円(同10.6%減)を見込んでいます。

なお、今期から当社の経営体制は、取締役・執行役員ともに担当業務・役割への責任を明確化し、若手の登用を図ることで、次の経営陣の育成を果たしていく考えです。

投資家のみなさまにおかれましては、引続き当社事業へのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

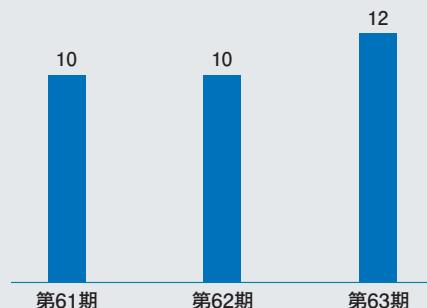
株主還元方針に関する考え方

当社の利益配分についての基本的な考え方は、1株当たり配当金を年10円とし、株主への安定的な利益還元を行いつつそれをより高めるとともに、経営基盤、企業体質の強化を図るため、中・長期的見通しに基づき内部留保を厚くして株主資本を充実させることにあると考えております。

当社の剰余金の配当は、中間配当および期末配当の年2回を基本方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会です。

内部留保資金につきましては、業容の拡大に向けた財務体質の強化と、研究開発および販売体制の強化を中心とした投資に活用し、今後とも安定した配当水準の維持、向上に努めてまいります。

配当金の推移 (単位:円)



当連結会計年度における我が国経済は、欧州の債務危機や新興国の成長鈍化などの景気の下振れ要因があったものの、震災の復興需要とエコカー補助金などの政策効果が見られ、また、新政権による経済対策、金融政策への期待感から、円高の是正、株価の上昇など、景気回復の兆しが見られました。

当社グループの主要得意先である自動車関連企業につきましては、生産の回復に伴い設備投資に増加基調が見られましたが、長らく続いた円高に対応するため海外への生産移転が進んでおります。

このような経済環境のもとで、当社グループは、自動車関連企業向けの機械設備の海外案件に注力し、自社製品である抵抗溶接制御装置などの拡販の取組みを強化いたしました。

この結果、当連結会計年度の業績につきましては、売上高は188億4千5百万円と前連結会計年度に比べ8億1千9百万円(4.5%)の増収となり、営業利益は自社製品の売上増加に加え、貸倒引当金戻入額1億8千3百万円などの計上により、8億1千2百万円と前連結会計年度に比べ2億8百万円(34.4%)、経常利益は持分法による投資利益2億7百万円および為替差益1億5千7百万円の計上などにより12億3千8百万円と前連結会計年度に比べ4億2千万円(51.3%)、当期純利益は10億2千8百万円と前連結会計年度に比べ6億9千5百万円(208.1%)のそれぞれ増益となりました。

セグメントの業績は、右記のとおりであります。

日本

日本につきましては、自社製品である抵抗溶接制御装置の受注および自動車関連企業向けの機械設備の受注が順調に推移したものの、電気機器関連企業向けの機械設備の受注が落込み、売上高は170億8千7百万円と前連結会計年度に比べ8千5百万円(△0.4%)の減収となりましたが、営業利益は製造コストの削減および貸倒引当金戻入額の計上などにより、5億9千3百万円と前連結会計年度に比べ1億6千1百万円(37.5%)の増益となりました。

中国

中国につきましては、日系企業向けの機械設備および電気部品の販売が伸びたことなどにより、売上高は11億7千4百万円と前連結会計年度に比べ7億2千8百万円(163.3%)の増収となり、営業利益は9千4百万円と前連結会計年度に比べ5千8百万円(158.9%)の増益となりました。

タイ

タイにつきましては、自社製品である抵抗溶接制御装置の拡販に注力し、売上高は10億1千2百万円と前連結会計年度に比べ3億3千2百万円(48.8%)の増収となり、営業利益は1億1千4百万円と前連結会計年度に比べ3千5百万円(45.7%)の増益となりました。

体感型(見・聞・触)ショールーム開設

ナ・デックスグループは今年3月に本社1階にエレクトロニクス・F A関連商品を「見」「聞」「触」といった様々な知覚で体験していただけるショールームを新設しました。当ショールームをメイン会場として開催した3月のプライベート・ショーではナ・デックス技術センター会場と合わせて延べ800名が来場し盛況となりました。今後当ショールームを活用して、取引先とのコラボレーション、従業員教育の活性化を進め、お客さまに頼られる「一歩先を行くソリューションを提供する企業」に進化してまいります。

NADEX



本社1階のエントランスから続く広々としたスペースで、様々な視点から商品を体験していただき、お客さまと改善案を醸成していきます。



セミナールーム(左)やトレーニングスペース(上)など、コミュニケーションスペースも充実。



まるで銀河鉄道を運転するかのようにな・デックスプロダクツの会社案内を体験できるユニークなブースです。

テーマ毎に様々なコーナーが設置され、触って試したり、タッチパネルで即座に商品情報をご覧いただくことができます。当社営業担当がお客さまとディスカッションしながら新しい提案を創造していきます。



制御機器コーナー



マイクログリッドコーナー



ジオラマコーナー



各種スイッチ



電子部品・実装基板コーナー

**本社
ショールーム**

所在地 名古屋市中区古渡町9番27号
株式会社ナ・デックス 本社1階
TEL (052) 322-3511

開館時間 午前10時～午後5時
休館日 土日祝祭日、夏期、
年未年始12月29日～1月4日

世界最大級100kWレーザー施設が稼働

ナ・デックスグループは、福井県、敦賀市の協力を得て、敦賀市にナ・デックスレーザーR&Dセンターを設立しました。今後、大学研究機関の技術支援により産学官連携による大出力レーザーなどのプロセスおよびシステム開発を推進してまいります。

低出力から大出力に至るレーザー加工技術の研究開発

異種材料、ハイブリッド、テーラードブランク、ブレイジングなどの最先端技術開発

プロセスからシステムインテグレーションで産業界に貢献

▶5月29日に、開所式を開催しました。



ナ・デックスグループ代表挨拶

ナ・デックスレーザー
R&Dセンター
設立記念講演会



ナ・デックスレーザーR&D
センター設立記念講演会

▶最先端のレーザー加工技術を開発

低出力から大出力に至る研究開発を可能にする設備機器構成で、一回で厚板を加工できるワンパス溶接や、アーク溶接とレーザー溶接を組み合わせるハイブリッド溶接など多彩な溶接加工研究を進めていきます。



ワンパス溶接イメージ

“300mmの厚板も
「深掘け込み」で
1回で溶接。”

火入れ式



ナ・デックスレーザー R&Dセンター

事業主体 株式会社ナ・デックスプロダクツ
所在地 福井県敦賀市助生野62号31番地2 (敦賀市産業団地)
TEL (0770) 25-2266
敷地面積 1,134㎡(約344坪)

建物面積 999㎡(約303坪)
雇用 8名(新規地元研究者雇用5名程度)
投資額 約6億円

連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

区 分	前 期 (平成24年4月30日現在)	当 期 (平成25年4月30日現在)
資産の部		
流動資産	11,735	12,271
固定資産	3,674	4,637
有形固定資産	2,151	2,805
無形固定資産	193	196
投資その他の資産	1,330	1,636
資産合計	15,409	16,909
負債の部		
流動負債	6,981	7,232
固定負債	253	374
負債合計	7,235	7,606
純資産の部		
株主資本	8,306	9,231
資本金	1,028	1,028
資本剰余金	751	751
利益剰余金	6,682	7,607
自己株式	△154	△155
その他の包括利益累計額	△140	57
その他有価証券評価差額金	16	104
為替換算調整勘定	△156	△46
少数株主持分	7	13
純資産合計	8,174	9,302
負債純資産合計	15,409	16,909

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

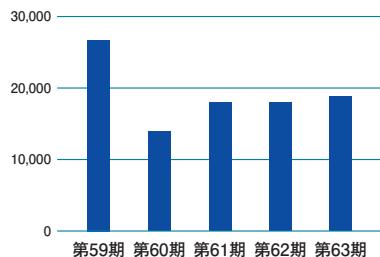
区 分	前 期 (自平成23年5月1日 至平成24年4月30日)	当 期 (自平成24年5月1日 至平成25年4月30日)
売上高	18,025	18,845
売上原価	15,378	15,787
売上総利益	2,646	3,058
販売費及び一般管理費	2,042	2,246
営業利益	604	812
営業外収益	234	434
営業外費用	20	8
経常利益	818	1,238
特別利益	75	2
特別損失	128	18
税金等調整前当期純利益	765	1,222
法人税、住民税及び事業税	33	138
法人税等調整額	391	49
少数株主損益調整前当期純利益	340	1,034
少数株主利益	6	6
当期純利益	333	1,028

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）（単位：百万円）

区 分	前 期 (自平成23年5月1日 至平成24年4月30日)	当 期 (自平成24年5月1日 至平成25年4月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	483	1,112
投資活動によるキャッシュ・フロー	785	△187
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,042	△1
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	21
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	225	945
現金及び現金同等物の期首残高	2,543	2,769
現金及び現金同等物の期末残高	2,769	3,714

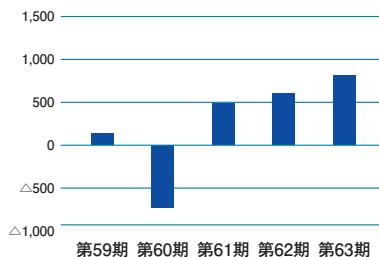
売上高

(単位：百万円)



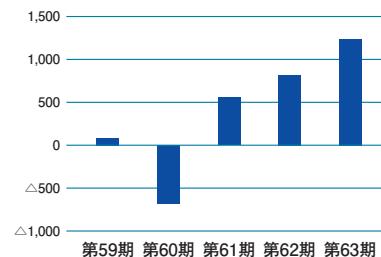
営業利益又は損失

(単位：百万円)



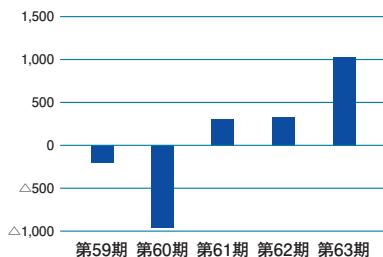
経常利益又は損失

(単位：百万円)



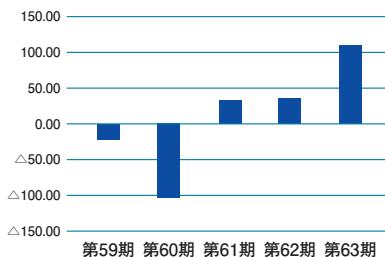
当期純利益又は純損失

(単位：百万円)



1株当たり当期純利益又は純損失

(単位：円)



純資産／総資産

(単位：百万円)



区分	第59期 平成21年4月期	第60期 平成22年4月期	第61期 平成23年4月期	第62期 平成24年4月期	第63期 平成25年4月期
売上高 (単位：百万円)	26,719	14,009	17,985	18,025	18,845
営業利益又は損失 (△) (単位：百万円)	136	△726	484	604	812
経常利益又は損失 (△) (単位：百万円)	83	△681	556	818	1,238
当期純利益又は純損失 (△) (単位：百万円)	△203	△965	303	333	1,028
1株当たり当期純利益又は純損失 (△) (単位：円)	△21.78	△103.59	32.58	35.79	110.34
純資産 (単位：百万円)	9,356	8,293	7,953	8,174	9,302
総資産 (単位：百万円)	17,912	15,722	15,810	15,409	16,909

(平成25年4月30日現在)

■ 会社概要

商号	株式会社ナ・デックス (英文名/NADEX CO.,LTD.)
本店所在地	名古屋市中区古渡町9番27号 TEL (052) 323-2211
設立	昭和25年10月
資本金	1,028,078千円
従業員数	374名(連結)、156名(単体)

■ 役員 (平成25年7月23日現在)

代表取締役社長	太田 善教
常務取締役	渡邊 修
取締役	高田 寿之
取締役	福永 喬
取締役	古川 雅隆
常任監査役(常勤)	武田 吉保
監査役	加藤 正樹
監査役	伊藤 豊彦
執行役員	本田 信之
執行役員	横地 克典
執行役員	遠藤 一行
執行役員	水戸 隆
執行役員	進藤 大資

(注) 監査役加藤正樹氏および伊藤豊彦氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

■ 株式の状況

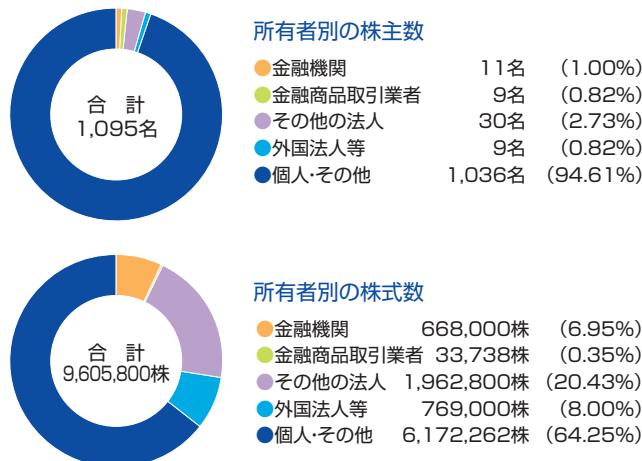
発行可能株式総数	40,125,000株
発行済株式の総数	9,605,800株 (自己株式282,715株を含む)
株主数	1,095名

■ 大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社アート・ギャラリー富士見	1,400,000	15.01
ピーエイチフォーファイティロープライズストックファンド (プリンシパル オール セクター サポートフォリオ) (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	700,000	7.50
古川 佳明	312,000	3.34
古川 美智子	285,000	3.05
竹田 和平	284,000	3.04
ナ・デックス社員持株会	222,000	2.38
古川 雅隆	205,000	2.19
株式会社三井住友銀行	152,000	1.63
株式会社三菱東京UFJ銀行	144,000	1.54
尾崎 博明	144,000	1.54

(注) 持株比率は、自己株式(282,715株)を除く発行済株式総数に対する持株数の割合であります。

■ 株式分布状況



拠点



上海工場

中国



タイ工場

東南アジア



ミシガン工場

米州

国内

株式会社ナ・デックス

本社：名古屋市中区

東京支店：さいたま市大宮区

大阪支店：大阪市淀川区

技術センター：愛知県北名古屋市

株式会社ナ・デックスプロダクツ：岐阜県可児市

その他の拠点：横浜、岡山、北九州

海外

米国：ミシガン州

メキシコ：ケレタロ州

中国：上海、広州、天津、杭州

タイ：バンコク

インドネシア：チカラ



ナ・デックス
本社



ナ・デックス
プロダクツ工場



技術センター